

## こんにちは！高建ハウジングです！2025年1,2月号！！

遅い挨拶にはなりますが『明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。年末年始はどのように過ごされましたか？実家に帰省、国内外旅行、家でゆっくりと様々な過ごし方がありますが私は家でゆっくりと過ごしました。そんななか、小学校の同級生と新年会をしました。約5年ぶりに会う友達もいて会話が弾みました。



### 新しく始まります！！参考にして下さい。

昨年終了した**住宅省エネ2024キャンペーン**ですが今年は**住宅省エネ2025キャンペーン**となり新しく始まります！！補助金額の大まかな内訳ですが**住宅新築の場合160万円～40万円**です。前回のキャンペーンの場合、上限100万円でしたので補助金が大幅に増額となりました。また住宅リフォームの場合**200万円～5万円**です。こういったリフォーム工事が対象になるのかと言いますと**【サッシの交換や、内窓取付】**、**【床、壁、天井の断熱】**、**【浴室リフォーム】**、**【トイレ交換】**、**【エアコン設置】**、**【エコキュート設置】**、**【キッチンリフォーム】**等様々なリフォーム工事にされる予定の補助金になっています。特に電気温水器を使用している方はエコキュートに交換することをオススメします。数年前から東北電力による深夜機器の電気料金の割引が無くなりました。そのタイミングで電気料金が高くなったと感じた方はエコキュートへの交換を検討してみてください。省エネ設備の導入や断熱リフォームは水道光熱費の削減につながります。また**自分が行いたい工事が対象になるのか気になる場合はご連絡下さい。**補助金を活用した住宅新築工事、住宅リフォーム工事で光熱費を削減しましょう。



### 引き続き住宅新築工事着工中です。

現在、福島市内で住宅新築工事を行っております。**断熱等級6**をクリアする夏涼しく冬暖かい家です。木工事が間もなく終了し仕上げ工事に入っていきます。以前もお話いたしましたが最近の住宅のキー



ワードは**【無駄を無くす】**、**【コンパクト】**、**【シンプル】**の3つです。現

在着工中の住宅はこの全てに当てはまります。建物を内覧したい方は連絡下さい。2月中旬頃までは内覧可能です。最近のトレンドを知るいい機会だと思います。

## ピアノを欲しい人いませんか？

12月下旬、福島市内のお客さんの家に伺った際に奥さんから『誰か、ピアノ欲しい人いない？』と話が出ました。私はピアノに詳しくないので左側の写真をご覧ください。譲り渡しのピアノは30年以上前のピアノで調律していません。これを読んでいる方でピアノを欲しい方や一度見てみたい方は弊社までご連絡下さい。その後、持ち主さんのアポをとります。ただし搬出運搬調律は譲り受ける方でご負担になりますのでご注意ください。



## よく聞かれる相談です。

『外壁の塗装ってやったほうがいいですか？』といった相談はよく聞かれます。答えは『もちろんやったほうがいいですが劣化の状況によってはまだ大丈夫かもしれませんよ』と答えます。お客さんが劣化状況を自己判断でする場合の材料をしては【チョーキング現象】がわかりやすいと思います。【チョーキング現象】とは外壁を触った時に粉がつく現象です。他にも【外壁が色あせている】や【ジョイントや窓廻りのコーキングがカチカチに固まっているやヒビが入っている】等は塗装のタイミングです。



また板金屋根は錆びて穴が開く前に塗装をしましょう。スレート屋根は色あせ、藻の発生があれば塗装のタイミングです。

(写真左:施工中)(写真右:施工完了時、塗装によりきれいになりました)

## 2025 年はどんな年になるの？

2025 年は多方面で法改正や制度の施行が予定されています。4 月には育休取得状況の公表義務対象の拡大などを含む「育児介護休業法等の改正法」や、希望者全員への 65 歳まで雇用機会の確保が義務化される「高年齢者雇用安定改正法」などといった雇用に関連する改正法が施行される予定です。新築住宅の省エネ基準への適合義務化など「改正建築基準法・建築物省エネ法」施行が控えているほか、6 月には原発の 60 年超の運転期間を可能にする「GX 脱炭素電源法」が施行される予定です。法改正で企業にはさまざまな対応が求められますが、より良い社会の構築と経済の発展への効果が期待されます。他方で、2025 年には日本の人口の約 5 人に 1 人が 75 歳以上の後期高齢者となり、社会保障の負担増や労働力人口の減少などいわゆる「2025 年問題」が生じるほか、企業の DX の遅れによって予想される 2025 年以降の経済損失を総称して「2025 年の崖」も控えています。加えて、物価上昇の継続が懸念されるほか、米新政権の経済政策の行方や中東情勢などリスク要因も複数ありますが、それらを乗り越え、明るい話題で溢れる一年であることを願うばかりです。